

公聴会「アリバイ作りか」

安保関連法案に関する地方公聴会が16日、横浜市のホテルで開かれた。関心の高い重要案件の審議の際、国会法では衆参の委員会が公聴会を開き、学識経験者らに意見を聴くことができ

る。ただ、過去には開催日に採決されたこともあり、出席した委員や傍聴人から「アリバイ作りではないか」との批判が相次いだ。

「委員長、横浜地方公聴会は慎重で十分な審議のための会ですか。それとも採決のための単なるセレモニ―ですか」

公述人の水上貴央弁護士が意見陳述の冒頭、鴻池祥肇委員長に迫った。質問する側の野党委員も「地方の

声を審議に生かすべきだ」「もっと前に開くべきだ」と代わる代わる訴えた。

本来は審議の参考にするために行われる公聴会だが、公聴会で出た意見を反映し、法案が修正されるケースはほとんどない。

日の丸・君が代を国旗・国歌とする国旗・国歌法案の審議では学校現場への影響が懸念されるなか、国会で開かれた中央公聴会と同じ日に、参院特別委、本会議で可決。

安全保障関連法案では衆院特別委が7月6日にさいたま、那覇両市で開き、13日に国会で中央公聴会を開いた。委員会の可決は15日。中央公聴会で公述人を

務めた山口二郎・法政大教授（政治学）は当時の取材に「意見を聴いた上で、も

う一度審議し、反映させるプロセスがほしい」と話した。

警官ともみあいも

横浜市の地方公聴会終了後、ホテル周辺は、参院特別委の締めくくり総括質疑のため国会に戻る委員らの行く手を阻もうとする市民らと警官がもみ合いとなり、一時騒然となった。

16日午後3時50分過ぎ、公聴会に参加した議員が乗っていると思われる黒い乗用車がホテルから走り去った。その後、後続の車の通行を阻もうと、歩道と車道の間で腕を組み合っ

つしり並んだ警官の間を、市民らが次々にすり抜けていく。「絶対通すな」「逮捕だぞ」と叫ぶ警官ともみ合いながらも、約1000人が車道に寝そべり、あつ

という間に行く手をふさいだ。寝そべった市民らを起こしても、歩道から飛び出た別の人たちが車を囲んでいく。結局、数台の車が100分ほどの道を通り抜けるのに約40分間かかった。

デジタル版に動画

9/17 朝日

注目! 安保国会

地方公聴会

16日@参院特別委<横浜>

=上から発言順

伊藤俊幸

前海自呉地方総監

平素から同盟国や友好国と緊密な信頼関係を構築して抑止力を高め、現状変更を試みようとする他国の意思をくじくこと。これが安保法案の根幹だ。抑止が効果を発揮

できず、侵略が始まった場合、自衛権を発動するが、それは必要最小限度の実力行使だ。憲法で交戦権を否定している我が国に認められる武力行使は、新たに他国への武力攻撃という要件が加わっても、攻撃を排除することだけだ。【与党推薦】

広渡清吾

専修大教授

安保法案は自衛隊を武力行使する軍隊として世界に派遣し、自衛隊が人を殺し、殺される事態を作り出す「戦争法案」だ。集団的自衛権を個別的自衛権と同質のものだ

として、論理的整合性と法的安定性が保たれているという主張は国民を欺く。違憲法案の強行で米国との同盟関係を強化する道は、個人の尊厳に基礎づけられた平和主義に基づく日本の高い志と道義性を消し去る。廃案にすべきだ。【野党推薦】

渡部恒雄

東京財団上席研究員

安保法制は日本の防衛能力を向上させ、平和を維持させ、日本を取り巻く環境を安定させて、日本が侵略されたり、軍事の圧力に屈したりするようなりリスクを少なくす

ることが目的だ。集団的自衛権の一部行使容認により、米国や関係国とより広い協力をできるようになった。平時から共同訓練をして準備しておけば、潜在的な挑戦者に軍事攻撃をためらわせ、攻撃を未然に防ぐことも期待できる。【与党推薦】

水上貴央

弁護士

後方支援による武力行使との一体化や自衛官による武器使用など、安保法案は違憲の問題を抱えているだけでなく、法律自体が欠陥法案で不当な結論を導くような

「不当法案」だ。政府は合憲の枠組みを作ることができるのか、模索すべきだ。国会は立法するところで政府に白紙委任を与える場所ではない。この法案を通したら、国会の存在意義はない。単なる多数決主義で、民主主義ではない。【野党推薦】